

平成30年7月25日、市長が新規採用職員に対して講話を行いました。その一部を紹介します。

## 「これからあと80年」

これまでは人口増加、経済成長の時代で、山の頂上を目指す時代でした。頂上は一つだけです。だから自然とみんな同じ目標に向かって進んでいました。しかし時代は変わりました。人口は減少し、山を下っていく時代になったのです。山の麓は一つではありません。だから人々は、どこへ向かっていいかわからず、戸惑ってしまうのです。そんな目標が定まっていない世の中で、行政だけで目標を決めて物事を進めるには限界があります。だからこそ、今の時代は市民と話し合って、みんなでまちの方針を決める必要があるのです。「長久手市みんなで作るまち条例」は、コンサルなどに頼んで手早く作ることはせず、市民を集めて、自分たちで一から作りました。「さかそうながくてじちのはな」という詩は条例を作る際に出た、いろいろな話や想いを込めて歌にしたのです。これから何か新しいことを始めるとき、この歌の詩にその取組が合っているかどうかを考えて仕事をしてください。

職員である皆さんは、どんどんまちに出て行ってください。長久手市全体があなたたちの職場です。外に出て、市民に挨拶をしてください。ポイントは2つ。笑顔で相手の顔を見ることです。

名古屋市のとある病院では、お医者さんが診察の後「ところで、何か困っていることはない？」と聞いて、「そうか、電球が替えられないのか」と困りごとを地域につなぐ役割をしています。お医者さんが病気以外の相談にのる時代です。市役所も、自分の仕事だけでなく、他の部署のことも知っていくことが求められる時代になりました。

しかし現状、市役所の仕事は縦割りになってしまっています。課が違えばもちろん、係が違うだけで何をしているのかわからないことがあります。庁内でわからないことを聞かれても、「〇〇課が担当です。」と案内すれば済んでしまいます。しかし、いったん市役所から外に出て、市民に声をかけられると、「担当でないから知らない。」と断ることはできません。わからなければ調べて答えられるようにする必要があります。まちへ出れば、他の課がどんな仕事をしているかを知ることが、いかに大切か気づくでしょう。縦割りで自分の仕事だけを行うのではなく、市役所の仕事を包括的に見なければなりません。

近年、日本は超高齢化の時代に入りました。やることがなく病にかかり、寝たきりになった高齢者は、医者や家族に何もかもやってもらうだけで、たつせはありません。

しかし、寝たきりの人のそばで子どもが騒いでいたらどうでしょうか。子どもたちを注意することでその人にはたつせが生まれるのです。人には役割が必要です。

今、長久手市には1万人近くの高齢者が生活していて、その中には、元公務員はもちろん、大手企業に勤めた人、保育士、歌が歌える人、パソコンに詳しい人など様々な能力を持った人がいます。そして健康で元気で時間もある人がたくさんいます。それならば、そんな何でもできる人たちに仕事を一部移していきましょう。例えば保育園。子どものそばに、お年寄りがいれば、子どもたちは気になって（普段見かけないから）声をかけます。お年寄りは、子どもに遊びを教えたり、叱ったりすることで新たな役割が得られます。子どもたちも、先生以外の人と新しく豊かな経験をすることができるでしょう。市役所が何もかもやっていく時代は終わったのです。建物を建てるにしても、ルールを決めるにしても、市民と一緒に考え行動してください。時代は変わったのです。これまでは受け入れられなかった考え方も、今は何か変えなければいけなくなりました。全員に役割が必要な時代になってきているのです。

これからの長い長い人生の中で、自分のために市役所の仕事を利用してください。今は100歳まで生きる時代です。40年仕事をした後、40年地域で過ごすことになります。仕事を終えた後に、やることなく、知り合いもいない生活を送ることになってはいけません。言い方は悪いかもしれませんが、この先の人生を考えて、自分のために、面白い仕事をしていってください。仕事を利用して人に会いに行き、どんどん話し、交流の場を広げましょう。そして市民に「市役所の〇〇さんだ！」と顔と名前を覚えてもらってください。やりがいを見つけながら働いて、市民に直接「ありがとう」といってもらえる、そんな職員になってください。

～市長の話聞いて～

先日、市役所から杵ヶ池体育館まで自転車をこいで向かったことがありました。オレンジベストを着ていたこともあってか、挨拶をすれば市民の方は皆、笑顔で返してくださり、「暑い中大変ですね。」と声をかけてくださる人もいました。杵ヶ池公園周辺を歩いていると、「ここの桜の木が大好きで、毎年楽しみにしているんだよ」と話しかけていただくこともあり、なんだかうれしくなったことを覚えています。私は今年入庁したばかりで、まだ市内に知り合いが多いとは言えません。これから積極的にまちに出て行き、たくさんの市民の方々と関わっていけるようにしたいと思いました。